

編集後記

表紙写真は、福島市西部に位置する吾妻連峰の山々です。厳しい冬を乗り越え、春を迎えると吾妻小富士には「種まき兎」が現れます。春を告げる種まき兎は、福島の子どもたちの明るい未来を予感させてくれます。

「笑顔」「勇気」「未来」「そして絆」私たち福島教職員がこれまで追求めてきた子どもたちの姿です。そして、これからも追求めていきたいという願いを込めて表紙裏に写真を掲載しました。

さて、絆3部作それぞれの制作の意図を改めて振り返ってみます。「ふくしまの絆」では、震災から2年が経過し、大災害により被害を受けた当時の各学校の状況や校長としての判断、対応等を記録にまとめました。「学校は、復興の最大の拠点」を合言葉に、ふるさと「ふくしま」の再生に向けた学校再開の取組を伝えました。「ふくしまの絆Ⅱ」では、震災から6年が経過し、少しずつ復旧・復興の歩みを進めてきた中で校長の取組や思いを伝えました。子どもたちが困難に負けず夢に向かって努力する姿も伝えることができました。そして、「ふくしまの絆Ⅲ」では、震災から9年が経過し、次第に記憶が薄れていく中で、当時、困難や試練に直面しながらも教職員が強い意思と使命をもって取り組んだ様子を改めて伝え、「記憶の風化」を食い止めようとの思いで制作に当たりました。

そこで今回、東日本大震災記録集「ふくしまの絆 総合版」を編集するに当たって、特に留意した点は、絆3部作それぞれの制作の意図をしっかりと伝えることでした。

そのために総合版では、「ふくしまの絆Ⅲ」について、ほぼ全ページを掲載しました。一方で、「ふくしまの絆」と「ふくしまの絆Ⅱ」については、それぞれの意図が表れている部分を中心に約20ページ余りを抜粋して、掲載しました。実際の編集作業では、どの文章からも震災当時の各学校の苦悩や、復旧・復興に向け前へ進もうとする人々の思い等が伝わってくるものであり、そうした中から文章を選択しなければならぬことは、大変苦しい作業でした。そこで編集方針として、①当時の被害の状況、校長の考えや思い、教訓を伝えること、②困難に負けず未来を見つめ、たくましく育つ子どもたちの様子を伝えること、③縦書きを横書きに統一するなど3部作の一体感をもたせることを掲げ、編集委員で何度も検討し、このようにまとめることができました。

さらに、福島に生きる子どもたちに必要な知識等を身に付けるために全県的に取り組んでいる放射線教育・防災教育の実践事例を掲載しました。実践校は、福島県教育委員会の実践協力校として指定され、研究を進めてきた学校です。今回掲載した実践校の取組は、他県の学校でも大いに参考になるはずです。各学校での実践の充実を期待しています。

巻頭言で、会長が述べたように、本書を手にして、読まれた校長先生方が東日本大震災及び原子力災害から10年を経た今、改めてご自身の「解」を見出していただくことを願っています。時あたかも新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中の人々が苦しんでいます。感染が広がり、各学校では通常の学校経営に支障をきたし、対応に苦慮している状況です。それは、震災当時を彷彿とさせます。しかし、私たちは震災と原子力災害から10年、困難を一つ一つ乗り越えてきた経験があります。その経験は、今回のコロナ禍にあって大いに役立つに違いありません。私たち校長の思いを一つにし、絆を深めながら、着実に学校経営に当たっていかうではありませんか。

結びに、絆3部作及び総合版に関わっていただいた多くの皆様、また、震災以降ご支援をいただいております全国連合小学校長会様、東北連合小学校長会様、全国の各校長会様、各関係機関、諸団体の皆様に厚く感謝申し上げ、編集後記といたします。

編集委員

福島県小学校長会

副会長	午来 勝顕	(相馬市立中村第一小学校)
事務局長	野木 勝弘	(福島市立森合小学校)
事務局次長	岩下 聡	(福島市立清明小学校)

福島県小学校長会広報部

部長	佐藤 亮治	(福島市立福島第二小学校)
副部長	松野 光伸	(福島市立清水小学校)
幹事	坂本 真理	(福島市立佐原小学校)
幹事	吉田 牧子	(福島市立庭坂小学校)
幹事	遠藤 和宏	(伊達郡桑折町立半田醸芳小学校)

東日本大震災記録集 ふくしまの絆 総合版

第61回東北連合小学校長会研究協議会福島大会開催記念
第50回福島県小学校長会研究協議会福島大会開催記念

発行日	令和3年3月11日
発行者	福島県小学校長会 会長 佐藤 秀美 〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階 電話 024-534-5411
表紙題字	福島県小学校長会 会長 佐藤 秀美
印刷	有限会社 吾妻印刷 〒960-8074 福島市西中央四丁目25 電話 024-534-0342